

東京藝術大学 お仏壇のはせがわ賞 記念展

はせがわ銀座本店／ギャラリー

2011年11月3日[祝・木]～11月13日[日]

10:30～18:00



国宝・重要文化財などを数多く手がける

「はせがわ」の修復事業

はせがわでは創業以来、脈々と受け継がれてきた匠たちの技術の集積が認められ、数多くの修復、新調のご指名を承っています。熟練の漆塗りの技法、細心の注意を払った金箔押しなどの伝統工芸技法と現代技術、デザインが融合した温故知新の技が、これまでの仕事にいかされています。

国宝・重要文化財修復の主な実績

1967年	西本願寺鎮西別院 御宮殿 須弥壇御新調
1984年	西本願寺 阿弥陀堂御宮殿・須弥壇御修復（重要文化財）
1987年	清水寺 阿弥陀堂厨子修復、彩色工事（重要文化財） 清水寺 開山堂厨子 須弥壇、他仏具御修復（重要文化財）
1995年	太宰府天満宮 本殿漆塗り工事（重要文化財）
1996年	彦根城 軒唐破風、華頭窓、勾欄漆塗り工事（国宝）
1997年	知恩院 経蔵 華頭窓、建具、漆塗り工事（重要文化財）
1997年	唐津くんち 8番曳山「金獅子」修復（民俗文化財）
1999年	太宰府天満宮 楼門塗り工事（重要文化財）
2003年	吉田神社 大元宮漆塗り工事（国宝）
2005年	西本願寺 御影堂 第一期修復工事（重要文化財）
2005年	熊本城 本丸御殿、書院ほか御修復（重要文化財）
2006年	西本願寺 御影堂 第二期修復工事（重要文化財）
2010年	慈照寺 銀閣 漆塗り工事（国宝）

千年の命を吹き込む技、はせがわのものづくり
日本の美術工芸は、いにしえ人のそんな想いから生み出され、
長い年月をかけて磨きぬかれてきました。
はせがわの修復事業は、匠の技を残すことだけが目的ではありません。
我々の祖先が大事にしてきた「こころ」を後の世に伝えること、
それこそが、いまの私たちに与えられた使命なのです。



光あふれる浄土を目指して

はせがわ銀座本店／ギャラリー

はせがわ銀座本店／ギャラリーは、「ご供養の過去・現在・未来」をテーマに、日本の工芸技術と「祈りの心」をより広く知っていただくために生まれた、伝統とモダンを交えた柔らかな空間です。

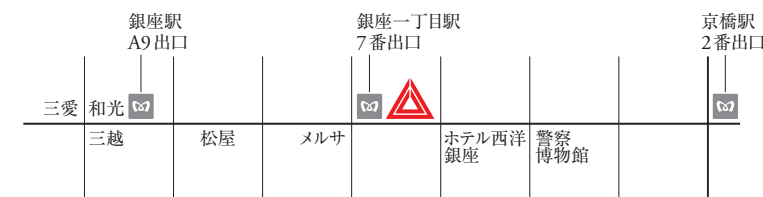
はせがわ銀座本店／ギャラリー

東京都中央区銀座 1-7-6 銀座河合ビル



0120-587-676

※店舗営業時間：10:30～18:30



東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7 番出口すぐ 東京メトロ銀座線 京橋駅 2 番出口徒歩約 4 分

技術を継承することは日本のこころを未来につなぐこと

日本のこころを次代につなぐこと——当社はこのことを使命として、文化財を守ることに心血を注いでまいりました。日本の文化財は、その力強さ、繊細さ、完成度の高さにおいて、世界でもまれなるものです。これらを生み出す高い技術を伝え残すには、それを継承する技術者の育成なくしてはあり得ません。

2006年、我々の想いに共感くださった東京藝術大学からのお申し出を受け、同大学大学院美術研究科文化財保存学専攻修士課程研究優秀作品に当社より賞を授与する運びとなりました。この「お仏壇のはせがわ賞」も今年で5回目を迎え、3回からは博士課程作品にも範囲を広げて、若い技術者の成長とともに、受賞作品も積みあがって参りました。

このたび歴代優秀作品並びに受賞者の受賞後の作品を、はせがわ銀座本店／銀座ギャラリー6階において、一堂に集め、記念展を催すこととなりました。どうぞご来店、ご覧いただきたく、ご案内申し上げます。

代表取締役会長 長谷川 裕一

代表取締役社長 長谷川 房生

東京藝術大学の前身である東京美術学校の創立者であった岡倉天心（1863－1913）は、日本の美術工芸の分野において、古典研究と伝統技術の保存にいち早く取り組んだことで知られ、わが国における文化財保護の原点をつくりました。
それ以来本学は、岡倉天心の教育を引き継ぎ、文化財保存学専攻として、文化財を保存し後世に伝え、将来を担うことのできる優秀な人材の育成を目指しています。

このたび、株式会社はせがわ様のご好意にて、「お仏壇のはせがわ賞」5周年を記念して、各受賞者の作品を一堂にご覧頂ける展覧会を開催して頂くこととなりました。いにしえの造形を現代へ蘇らせた研究成果を、多くの方みなさまにご覧頂けましたら幸いです。

東京藝術大学大学院美術研究科
文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室
教授 藪内 佐斗司



2006年度 受賞

藤曲 隆哉

円成寺蔵 大日如来坐像 模刻制作

本作は奈良県忍辱山円成寺に安置される大日如来坐像の模刻です。原作は安元2（1176）年に鎌倉時代に活躍した仏師運慶の確認される最初の作例として有名です。模刻研究では、条帛を別材で矧ぎつける特殊な構造や当時新たに取り入れられた玉眼技法などができる限り忠実に再現しました。現在は博士課程において復元模刻として漆箔工程を行っています。



お仏壇のはせがわ賞 受賞作品
撮影：早川宏一



在籍

東京都生まれ
武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 修士課程修了
2007年～ 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 教育研究助手
現在 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 博士後期課程
【主な研究および修復】
2008年 「東漸寺 馬頭観音立像修復研究」
2009年 「長禪寺 十一面観音立像修復研究」
2010年 「向嶽寺 釈迦三尊像修復研究」
2011年 「奈良県大慈仙町 薬師如来坐像修復研究」「東大寺伎楽面醉胡王 模刻研究」
「長野県忠恩寺 阿弥陀如来立像修復研究」



「阿弥陀如来立像」 【略歴】
截金：中村祐子
撮影：早川宏一

2007年度 受賞

吉水 快聞

東大寺俊乗堂蔵 快慶作阿弥陀如来立像 想定復元模刻

本作は、鎌倉時代を代表する仏師「快慶」の残した、東大寺俊乗堂内の阿弥陀如来（重文）の想定復元模刻です。事前調査結果を踏まえ、建仁3（1203）年頃の造立当初に使われていたであろう材料と技法を用いて制作しました。檜の一本割矧造りで玉眼を用い、表面仕上げは、快慶が好んで用いた表現である金泥塗に截金を施しています。本像は、来迎思想に基づいて、来迎のまさにその瞬間が表現されています。



お仏壇のはせがわ賞
受賞作品
截金協力：中村祐子



奈良県生まれ
伝宗伝戒道場を成満し浄土宗の僧侶となる
東京藝術大学美術学部彫刻科 卒業
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 修士課程修了
2011年 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 博士後期課程修了（博士号取得）
現在 彫刻家としての創作や仏像制作など多方面で活動中
【受賞歴】
1998年～ 第27回奈良県ジュニア県展において「ジュニア県展賞」 受賞
2000年 第51回奈良県県展において「知事賞」 受賞
2004年 『久米桂一郎賞』受賞
2011年 『野村美術賞』受賞（東京藝術大学博士研究作品）



「蓮のうてなに」
2011年 個人蔵



お仏壇のはせがわ賞 特別賞 受賞作品
絵屏制作：飯沼春子
厨子制作：はせがわ美術工芸

「獅子吼菩薩像」



禅林寺蔵

重要文化財「二十五菩薩来迎図絵屏」を中心とした厨子の想定復元模写

禅林寺は、浄土宗の西山禅林寺派の総本山で、秋の紅葉と本尊の見返り阿弥陀（重文）で有名な京都の名刹です。本作は、この禅林寺に残る絵屏を、目視調査、光学的調査、X線分析などを行って当時の彩色技法や顔料などを想定し、復元を行いました。截金、盛り上げ彩色の各技法は、屏を開いた状態で光が当たったときに、拝観者に対して最も表現効果を発揮する意図で用いられたものであると想定されます。



【略歴】
1977年 東京都生まれ
2006年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻 卒業
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復日本画 修士課程修了
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復日本画 博士後期課程修了（博士号取得）
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復日本画 非常勤講師、日本美術院研究会員
【受賞歴】
2002年 松濤美術館大賞受賞
2003年 松濤美術館優秀賞受賞
2005年 財団法人守谷育英会奨励賞受賞
2006年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻 修了制作 大学美術館買上げ賞受賞
第61回春の院展初入選（日本橋三越）

私が修士課程で行った研究は、高野山金剛峯寺蔵 矧羯羅童子立像の模刻制作です。生き生きとした表情をはじめ、天衣や肉身部に見られる写実的な造形表現によって、運慶制作を充分に感じさせる魅力ある像です。当時の技法を追体験することにより、割首が行われている可能性がきわめて高いとわかったことは、大きな成果でした。博士課程の現在では、彫刻彩色の研究を続け、本像の想定復元彩色を試みています。



※受賞作品は博士課程研究のため、現状のパネル展示による報告となります

お仏壇のはせがわ賞 受賞作品



「あざらし」 個人蔵



【略歴】
1983年 愛知県生まれ
2007年 東京藝術大学美術学部彫刻科 卒業
2009年 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 修士課程修了
現在 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 博士後期課程 在籍
【展覧会・受賞歴等】
2005年 『彫刻科18人展』（東京藝術大学彫刻棟／上野）
『DISCOVERY 2005』（青樺画廊／銀座）
『えん』（MARUIKE HOUSE／田端）
2006年 『第55回東京藝術大学卒業作品展』（東京都美術館／上野）
2007年 『第57回東京藝術大学修了作品展』（東京藝術大学陳列館／上野）
2009年 安宅賞（安宅賞奨学金基金）受賞
2011年

2008年度 特別賞 受賞

飯沼 春子

2008年度 受賞

黒柳 奈未子

2009年度 特別賞 受賞

須藤 和之

浄瑠璃寺吉祥天旧厨子絵
―東京藝術大学大学美術館所蔵―の彩色技法及び
図様に関する考察
〔厨子絵内面及び外面の想定復元模写を通じて〕

『浄瑠璃寺吉祥天厨子絵』は京都府・浄瑠璃寺の
木造吉祥天立像を納める厨子の扉絵として、建暦
2（1212）年に制作されたものです。本厨子は、
外面の正面扉のみに内面とは画題が大きく異なっ
ている図様が描かれています。一体なぜ両面で異な
る図像が描かれることとなったのか。本研究では
この疑問に焦点を当て考察することとしました。

お仏壇のはせがわ賞
特別賞
受賞作品



群馬県生まれ
多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復日本画 修士課程修了
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復日本画 博士後期課程修了（博士号取得）
日本美術院 院友
【展覧会・受賞歴等】
第3回前田青邨記念大賞展 奨励賞（同08）
再興第91回院展 初入選（同09 10 11）
2007年 有芽の会（池袋西武）（同08、09日本更正保護協会理事長賞、10）
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復日本画 修了作品 大学美術館買上げ賞 受賞
2010年 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復日本画 博士審査展



「雲」

2009年度 受賞

小沼 祥子

興福寺蔵
八部衆像のうち 乾闥婆立像 模刻制作

本像は、興福寺八部衆像（国宝）のうちの一軀で、
天平6（734）年、脱活乾漆という天平時代に
流行した技法で制作されています。麻布と漆を用
いた張り子状の構造で、非常に軽量です。また、
木粉と漆を混ぜた木粉漆での成形による、独特
の柔らかい表現が特徴です。急速に衰退した為、
詳細が未解明となってしまうこの技法を習得し、
乾漆像特有の表現への理解を深めることを目的と
し、模刻制作を行いました。



お仏壇のはせがわ賞 受賞作品

【略歴】
1984年 埼玉県生まれ
2008年 東京藝術大学美術学部彫刻科 卒業
2010年 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 修士課程修了
現在 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 教育研究助手

【展覧会および研究】
2007年 第5回武井武雄記念 日本童画大賞 入賞入選作品展
2009年 「長禅寺 十一面観音菩薩立像（平安・鎌倉）修復研究」
2010年 「深大寺 毘沙門天立像 修復研究」
2011年 「個人蔵 木造狛犬 修復研究」



「viva la vida!」



お仏壇のはせがわ賞 特別賞
受賞作品

六波羅蜜寺蔵 広目天立像 模刻制作

原本像は、10世紀後半（951年）に制作され
た四天王像の一軀です。模刻制作や3Dデジタル
データで分析した結果、一木造（頭と同体がおよ
そ二材から彫出される構造）ではありませんが、角
材にされたヒノキ材を組み合わせて制作された可
能性が考えられました。よって日本特有の木彫
技法である寄木造が発生する前段階の像ともい
えます。



「生活検定（食後）」

東京都生まれ
金沢美術工芸大学彫刻専攻卒業
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 修士課程修了
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 博士後期課程修了（博士号取得）
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 教育研究助手



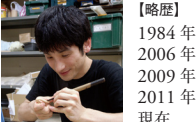
願興寺蔵 聖観音菩薩坐像 模刻制作
本像は現在、国指定文化財としては、四国で唯一
の脱活乾漆像です。奈良時代に制作された本像
を模刻することにより、当時の制作技法を追体
験することで、当初の造形感覚や古典技法に関
する理解を深めることを目的としました。



お仏壇のはせがわ賞 受賞作品



堆黒「蝶」 個人蔵



【略歴】
1984年 香川県生まれ
2006年 東京造形大学造形学部美術学科彫刻専攻卒業
2009年 香川県漆芸研究所 研究生課程修了
2011年 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 修士課程修了
現在 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻保存修復彫刻 博士後期課程 在籍

2010年度 特別賞 受賞

鈴木 篤

2010年度 受賞

白澤 陽治